



長に合わせ作業を見直したい。」という要望があったことから、新たな取組を検討することになりました。

## 2 今年度の取組について

### (1) イベント前の事前準備

#### ①安全管理対策について

東北森林管理局作成「森林環境教育・イベント実施時の安全対策チェックリスト」及び「緊急連絡体制図」を活用し、安全管理対策について入念に確認しました。過去4年は新型コロナウイルスの影響により縮小開催していましたが、今年度は通常開催となり参加者が増えるため、特に緊急時の体制について確認を行いました。また、作業予定箇所に生育していたツタウルシに対する注意喚起の看板や蜂誘引捕殺器を設置し、安全管理対策の徹底に努めました。

#### ②新たな取組について

##### ア 「ヤマメと森林の関係」の紙芝居

「なぜヤマメのために森林を整備するのか。」という点に主眼を置き、「ヤマメと森林の関係」と題した紙芝居を用いて説明することになりました。森林が持つ多面的機能や国有林の役割を図や写真を使って説明するほか、ヤマメの特徴をクイズ形式で紹介するなどし、参加者の理解が深まるような内容とすることになりました。

##### イ 森の成長に合わせた保育作業

これまでは主に植樹や下刈といった作業を行ってきましたが、今回は除伐、枝打ち、つる切りといった保育作業を実施することとしました。育樹体験を開始してから14年ほどが経過し、ブナの樹高も伸びてきていることから、新たな保育作業により鬱閉とした森林環境の改善を図ります。

##### ウ 参加者へのアンケート調査

紙芝居や作業内容の見直しなどの今回新たに行う取組について、イベント後に成果や課題を明確に把握できるよう、アンケート調査を行うことになりました。

参加者の様々な意見や要望を把握するため、アンケートは選択式及び自由記載欄を設ける形としました。



図3 漁協との打ち合わせ



図4 新たな取組の検討

## (2) イベント当日

当日は雨天にもかかわらず、地元企業やNPO法人など総勢30名が集まり、当支署からも9名の職員がサポートとして参加しました。

まずは紙芝居でヤマメと森林の関係について説明を行いました。育樹体験区域のすぐ近くにはヤマメなどが生息する役内川が流れ、その岸にはブナやナラ、サワグルミなどが生育する溪畔林が広がっています。このような豊かな自然環境の下、「多様な樹種があることで虫が多く集まり、ヤマメが餌に困らなくなる。」ことを説明しました。また、ヤマメの特徴に関するクイズも盛り込み、参加者からは「その特徴には気づかなかった。」「ヤマメの見分け方が分かった。」などの感想が聞かれ、場の雰囲気が大いに盛り上がる一助となりました(図5、図6)。

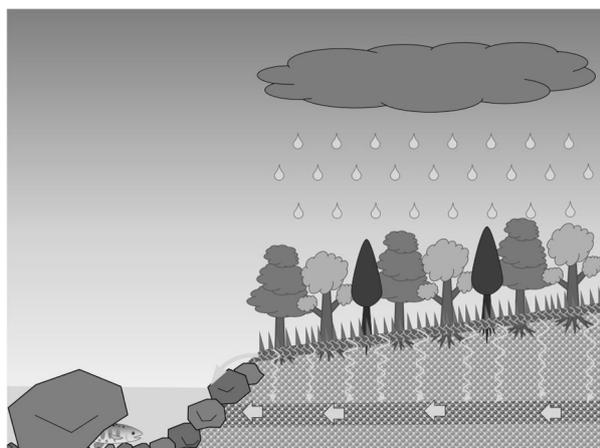


図5 紙芝居(水源涵養機能の説明)

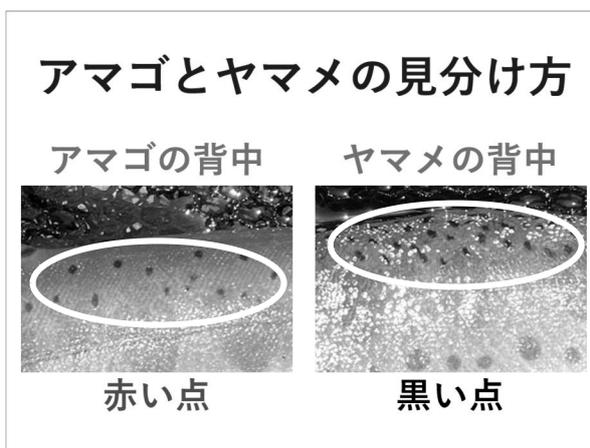


図6 紙芝居(ヤマメの特徴について)

その後グループを2つに分け、枝打ちなどの保育作業を実施しました。降雨の影響で足元がぬかるんでいたこともあり、作業がやりづらい状況であったものの、参加者は意欲的に保育作業に取り組んでいました。枝打ちやつる切りについて「コツを掴むと楽しい。」「枝を落とすと足元が少し明るくなり、充実感がわく。」といった声が聞かれました。安全管理に関しては、鎌などを扱うためグループ毎に作業区域を明確にし、人が多く集まりすぎることをないようにしました。また、ツタウルシ



図7 ツタウルシの注意喚起



図8 保育作業を職員がサポート

の注意喚起の看板付近では職員が参加者に声掛けするなどし、事故や怪我が発生しないよう万全の注意を期しました。

### 3 結果

#### (1) アンケート調査の結果

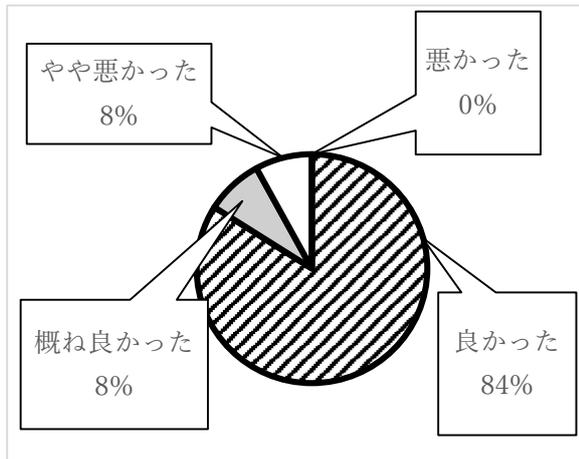


図9 作業の見直しについて

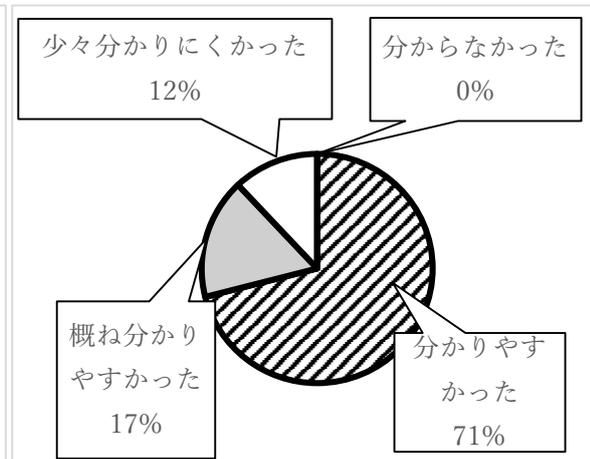


図10 紙芝居について

アンケートは大きく2つに分け、「作業の見直しについて」「紙芝居について」としました。

「作業の見直しについて」という設問に対しては「良かった」「概ね良かった」が9割以上を占め、多くの方が肯定的にとらえていることが分かりました(図9)。理由欄には「昨年とは違う作業を体験することで育樹の難しさ、大変さを知ることができやりがいを感じた。」「例年とは違う作業で雨も気にならないほど没頭してしまった。今回のように毎年作業を変えてみてはどうか。」といった意見が寄せられました。一方、「やや悪かった」という意見の中には「初めての作業だったため、何をしたらいいのかあまり分からなかった。職員の方にサポートをもっとしてほしい。」といった記載もありました。署職員のサポート体制について、今後より検討する必要があることが判明しました。

次に「紙芝居について」という設問に対しては「分かりやすかった」「概ね分かりやすかった」が9割近くを占め、こちらも多くの参加者が肯定的に捉えている結果となりました(図10)。理由欄には「川と森林の関係性が大変勉強になった。来年もぜひお願いしたい。」「川の生態について詳しく書かれており、説明も分かりやすく聞きやすかった。」といった意見が寄せられました。一方、「少々分かりにくかった」という意見の中には「内容は良かったが、雨も降っていたので少し聞こえづらいところがあった。」という記載もあり、今後の検討課題となりました。

また、その他自由記載欄には、安全管理について述べられているものがあり、「作業中の身近にある危険な草木や虫についてもっと教えて欲しい。」といった意見が寄せられました。今回はツタウルシや蜂について注意喚起しましたが、こちらも次回に向けた改善点の1つとなりました。

#### 4 まとめ

参加者のアンケートから、今回の新たな取組によりマンネリ化の解消が図られたと感じました。また、後日漁協とイベントの振り返りを行った際、組合長から「新鮮な体験でも満足した。引き続きアドバイスをお願いしたい。」というコメントも頂きました。これらのことから、今回の成果として、

- ①これまでの作業内容を見直し、新たな育樹体験とすることでマンネリ化を解消できた
- ②参加者の関心に沿った紙芝居により、川と森林の関係性、森林整備の重要性などを伝えることができた
- ③アンケート調査により、参加者の意見、要望を把握して今後の改善点を確認できたの3点が挙げられます。

一方、明らかとなった課題は、

- ①今回見直しに取り組んだ育樹体験の内容を継続するだけではいずれマンネリ化することから、漁協と連携してプログラムの改善に引き続き取り組む必要がある
- ②イベントの全体計画の策定と実行後に、漁協も交え、評価・検証を行う必要があるの2点が挙げられます。実際、一部の参加者からは「毎年違う作業をしてみたい。」という要望が寄せられたことから、いかに満足度の高い内容にできるかを検討する必要があります。これらの課題について、今後もPDCAによる課題解決に取り組み、良質な森林環境教育プログラムを提供できるよう、引き続き取り組んでいきます。



図 11 参加者と記念撮影